

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 9 月 3 日 (2020.9.3)

【公開番号】特開 2019-24897 (P2019-24897A)

【公開日】平成 31 年 2 月 21 日 (2019.2.21)

【年通号数】公開・登録公報 2019-007

【出願番号】特願 2017-146600 (P2017-146600)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 7 B

A 6 3 F 7/02 3 0 8 H

A 6 3 F 7/02 3 1 0 C

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 7 月 22 日 (2020.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が流下可能な遊技領域が設けられた遊技盤と、  
 前記遊技領域における上部に位置する供給位置より、前記遊技領域内へと遊技球を供給可能な発射部と、  
 遊技球を前記発射部まで案内することが可能な移送経路と、  
 前記遊技盤、前記発射部、前記移送経路が設けられた遊技機枠と、を備える遊技機であって、  
 前記移送経路は、前記供給位置よりも下方に位置する揚送下方位置から前記揚送下方位置よりも上方に位置する揚送上方位置まで延びる揚送経路を有し、  
 前記移送経路には、前記揚送上方位置から前記供給位置までの間に、遊技球を貯留可能な上方貯留部を備え、  
 前記遊技機枠は、  
 第 1 の部分と第 2 の部分とを有するとともに、  
 第 1 の状態と、前記第 1 の部分と前記第 2 の部分とが前記第 1 の状態よりも離れた第 2 の状態とをとることが可能なものであり、  
 前記上方貯留部は、  
 基部と開閉部とを有し、前記開閉部が、回転軸を中心として前記基部に対して回転することで、前記開閉部が閉じられた閉状態と、前記開閉部が前記基部に対して開かれた開状態とをとることが可能なものであるとともに、  
 前記第 1 の部分の側から見て、前記回転軸が、前記第 2 の部分の側に位置する状態で、前記第 1 の部分に設けられており、  
 前記第 2 の部分は、  
 前記上方貯留部を前記開状態としつつ、前記遊技機枠を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態としたときに、前記開閉部を前記基部に向けて押す押付部を有することを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

本発明に係る遊技機は、

遊技球が流下可能な遊技領域が設けられた遊技盤と、

前記遊技領域における上部に位置する供給位置より、前記遊技領域内へと遊技球を供給可能な発射部と、

遊技球を前記発射部まで案内することが可能な移送経路と、

前記遊技盤、前記発射部、前記移送経路が設けられた遊技機枠と、を備える遊技機であって、

前記移送経路は、前記供給位置よりも下方に位置する揚送下方位置から前記揚送下方位置よりも上方に位置する揚送上方位置まで延びる揚送経路を有し、

前記移送経路には、前記揚送上方位置から前記供給位置までの間に、遊技球を貯留可能な上方貯留部を備え、

前記遊技機枠は、

第 1 の部分と第 2 の部分とを有するとともに、

第 1 の状態と、前記第 1 の部分と前記第 2 の部分とが前記第 1 の状態よりも離れた第 2 の状態とをとることが可能なものであり、

前記上方貯留部は、

基部と開閉部とを有し、前記開閉部が、回転軸を中心として前記基部に対して回転することで、前記開閉部が閉じられた閉状態と、前記開閉部が前記基部に対して開かれた開状態とをとることが可能なものであるとともに、

前記第 1 の部分の側から見て、前記回転軸が、前記第 2 の部分の側に位置する状態で、前記第 1 の部分に設けられており、

前記第 2 の部分は、

前記上方貯留部を前記開状態としつつ、前記遊技機枠を前記第 2 の状態から前記第 1 の状態としたときに、前記開閉部を前記基部に向けて押す押付部を有することを特徴とする。